

学籍番号	氏名	担当教員	テーマ
M26-0185D	櫻井 奈緒	大曾根 先生	これで楽々！ デジタル介護ノートの開発 ～介護ノート記入機能～

1. 研究目的

在宅介護をする家庭が増えてきている。在宅介護は非常に家族の負担が大きい。なぜなら通常の生活と同時に介護を行うからである。そのため、負担を軽減するために複数の介護者の協力が必要であり、その情報共有のため、介護ノートが重要な役割を果たす。しかし、介護ノートには、記入の不統一や過去記録の検索しにくさという問題がある。そこで、介護ノートを電子化することにより、介護活動の負担を軽減しようと考えた。これにより、記入の手間の軽減や過去記録の検索のしにくさを改善できると考える。

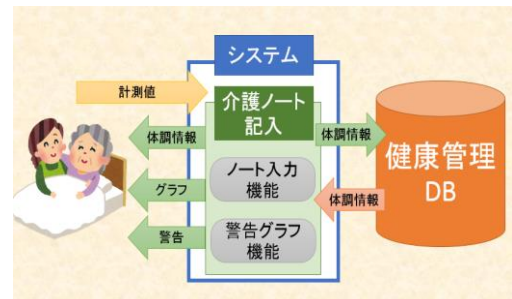


図1 システム概要

2. システム概要

本システムには、介護ノート記入機能と介護ノート活用機能の2つの機能を持たせた。そのシステム概要を図1に示す。筆者は介護ノート記入機能を担当した。

本機能は、介護対象者の体調を簡単に記入できる機能である。本機能には、以下の2つのサブ機能を持たせた。

(1) ノート入力機能

テンキーを使用して体温や血圧、着衣交換の記録など、介護者間の情報共有に必要な記録を記入させる機能である。介護ノート記入画面を図2に示す。素人でも入力しやすくするよう工夫した。

(2) 警告グラフ機能

介護ノートに蓄積された体温や血圧を、棒グラフと折れ線グラフの複合グラフにして出力する機能である。これにより、視覚から体調の変化を確認することが可能になる。また、入力された値が危険値であれば警告表示を行うよう工夫した。その警告グラフ画面を図3に示す。



図2 介護ノート記入画面

3. 実現方法

警告グラフ画面における危険値の警告は平均値 μ と標準偏差 σ を用いて表示することにした。すなわち、入力値が $\mu \pm \sigma$ を超えていたら「確認」、 $\mu \pm 2\sigma$ を超えていたら「注意」、 $\mu \pm 3\sigma$ を超えていたら「警告」と3種類に分類し、警告を出すことにした。

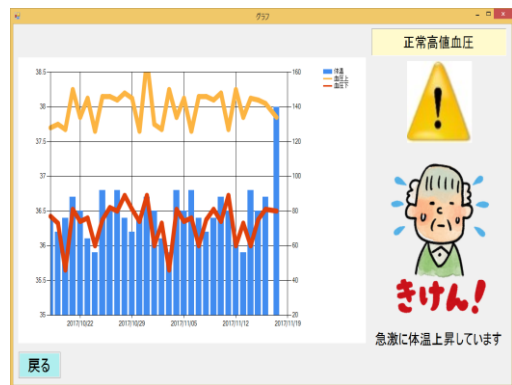


図3 警告グラフ画面

4. 研究成果

- (1) 記入の不統一を改善できる介護ノート記入機能を実現できた。
- (2) 素人でも危険値を視覚的に察知できる警告グラフ機能を実現できた。

5. 残された課題

- (1) 介護者が飽きずに、毎日欠かさず記入したくなるような工夫を加えたい。
- (2) 記録が増えるとグラフが見づらくなるため、月ごとにグラフを出力する改善を加えたい。

キーワード	在宅介護、介護ノート、体調管理、リスク管理、正規分布				
種類	システム開発	手法	介護支援	データ源	櫻井家の介護ノート
使用ハード	パソコン	使用ソフト	Visual Studio	使用言語	Visual Basic

